

陶芸が身近なまち、えべつ

江別市は「れんがのまち」といわれていますが、なぜ江別のれんがが有名になったか知っていますか？

江別のれんがは明治24年から製造が始まったといわれています。現在の野幌駅から野幌森林公園にかけて、れんがの原料となる粘土が豊富に含まれる土壌があつたため、江別にれんが工場が多く建ちました。最盛期には8社の工場が操業し、学校、サイロ、倉庫などで数多く江別のれんがが使用され、江別にれんがの街並みが作られました。

そんな歴史を持つ江別市で、やきものの文化に触れられる施設として、平成6年にセラミックアートセンターが開館し、今年で30周年を迎えます。

今回の特集は、長年愛されてきたセラミックアートセンターの魅力に迫ります。

【詳細】セラミックアートセンター

☎ 385-1004

セラミックアートセンターの中庭にある、原田ミドー氏が制作した「風の門」。春になると中庭には桜が咲き、フォトスポットとしても人気があります。

セラミックアートセンター 施設案内

展示スペースと工房スペースに分かれ、やきもの文化をさまざまな角度から楽しめるのが魅力です。ラウンジや中庭など、ゆったりとくつろげるスペースもあります。



教室・レンタル工房

陶芸教室を開催できるスペース。電動ロクロがある工房もあり広い作業スペースが魅力です。



北のやきものの展示室

定期的に展示作品を入れ替えるほか、企画展示の会場にもなります。



かまじつ 窯

窯が4つあり、一番大きい窯では一度に1,000作品以上を同時に焼くことができます。



れんが資料展示室

北海道のれんがの歴史や積み方などを、映像展示やクイズで学べます。



図書室

陶芸や芸術に関する本が並んでいます。落着いて陶芸を学びたい方におすすめです。



やきものショップ

市内在住の芸術家が制作した陶器やガラスの食器などの作品を購入できます。



右の写真は、平成7年に開催されたセラミックアートセンター開館後初の展覧会『北のやきもの軌跡 ―箱館焼から北斗窯まで―』の様子です。江戸時代から始まった北海道のやきものの歴史を時代順、窯別に紹介しました。

約30年後の令和6年には、『卒寿記念 鈴木藏の志野展』を開催しました。



過去の展示
セラミックアートセンターでは、イベントや特別展示なども行っています。

Interview

セラミックアートセンター 陶芸指導員

土屋 楓 さん

Tsuchiya Kaede

ものづくりが好きで、陶芸に興味を持ち、専門学校で陶芸を専攻。卒業後はセラミックアートセンターに勤務し、今年で8年目になる。

あなたも陶芸を始めてみませんか？
体験講座に参加して、興味が湧いたら、
工房で好きなやきものを一緒に作りましょう！

どんな仕事をしていますか？

セラミックアートセンターには、私を含めて3名の陶芸指導員がいます。主に陶芸体験などの企画・運営やレンタル工房を利用する方のサポートを行っています。

陶芸体験では、指導員が作成している様子を見た後、実際に作品を作ってもらいます。作り方の相談を受けたり、指導をしたりしています。

やきものが完成するまでの流れは？

まずは、粘土を作りたい形に成形します。次に成形した粘土を乾燥させ、窯に入れて素焼きします。素焼きが終わったら、下絵付けや釉薬などで装飾をします。その後、もう一度窯に入れ、本焼きをして完成です。

やきものを焼く窯の温度は約1200〜1300度まで上昇するため、窯から作品を取り出せるようになるまで、1週間程度やきものを冷ます必要があります。そのため、一つの作品が完成するまで1カ月程度かかります。

人気の体験講座は？

初心者に人気のある「やきものを始めよう」という講座で、週1回、約1カ月間の講座を年に三度開催しています。この講座では、コップや茶碗、お皿などを制作してもらいます。何度でも受講できるので「やきものは好きだけど、個人で工房を借りてまではちょっと…」という方は、こちらの講座をたくさん受講して、少しずつスキルアップをするのがおすすめです。慣れてきたら電動ロクロを使用する講座などを受講して、どんどんやきものを好きになってもらえたら嬉しいです。



生徒に教える土屋さん

また、他の体験だと、2年前から始まった「親子で板作りのお皿を作ろう！」は、未就学児のお子さんも体験に参加できるようになり、参加者が増えて人気体験になりました。

この体験とは別に、夏休みと冬休みの時期に親子陶芸体験を開催していて、自由研究のためにこの体験に参加する人が多いです。

小さいころから陶芸の面白さに触れることができるのはとても魅力的だと思います。

セラミックアートセンターの魅力は？

設備が整っているので、粘土を準備するだけで陶芸ができる場所です。

やきものを焼くための窯は4基あり、そのうちの2基は個人利用ができます。個人利用ができる窯は、2カ月先の予約まで受け付けていますが、いつも予約が埋まるくらい人気です。利用者の多くは、やきもの市などのイベントに出店する方です。

また、「陶芸指導員が常駐している」ことも魅力の一つです。

他の施設などでは、設備などは借りることができても、指導員がいないことが多いようですが、セラミックアートセンターでは、わからない事などがあれば、私たち陶芸指導員に気軽に相談することができます。

セラミックアートセンターの魅力は、陶芸ができるだけではなく、江別のれんがの歴史に触れたり、芸術家が制作した作品に触れたり、観たりすることが出来ます。企画展示室では、セラミックアートセンター利用者の作品展や美術展などが開催され、時期によっていろいろな芸術に触れます。やきものだけではなく、ロビーを使用してコンサートなどのイベント



作り方や色の相談に乗ります

も開催しています。

風の門が設置されている中庭もおすすです。周りが自然に囲まれているため、四季を感じられますし、晴れた日はベンチに座って一息つくこともできます。

セラミックアートセンターはいろいろな楽しみ方ができますので、ぜひ一度、気軽に足を運んでみてください。

やきものの魅力は？

自由度が高いところと、完成するまでのワクワク感を味わえるところが魅力です。

どんな形を作っても構わないので、形や色などたくさん選択肢があります。たとえ形を作る段階で失敗したとし



陶芸指導員が見本を作成します

ても、最初からやり直すことができます。自由に自分の好きな形をとことん追求できるところが面白いと思います。

そうして作ったものを窯に入れる瞬間は、どんな出来栄になるかと期待が高まります。しかし、作品を焼いて窯から出してみると、すでに割れてしまっていたり、思い描いていた形に仕上がっていないかったり、望んでいた色にならないこともあります。その失敗を糧に、何度もチャレンジして、うまくいったときはとてもうれしいので、完成した作品に直面する瞬間は、プレゼントボックスを開ける時のようなドキドキを味わえます。私は陶芸を約10年続けていますが、失敗をすることもありますが、うまくいくと嬉しいですし、失敗したとしても「今度はこうしてみよう」と前向きに取り組んでいます。

講座を受講した方や工房を利用した方には、最初は体験だけと思っているうちに、魅力を知って、どんどん好きになって、今も続けている、という方がたくさんいます。多くの人に作品が出来上がるまでのワクワク感を体験してもらいたいと思っています。



「やきものを始めよう」での制作風景

Interview

セラミックアートセンター 利用者

板東 美千代 さん

Bando Michiyo

趣味で陶芸をはじめ、気付いたら仕事以外の時間のほとんどを陶芸に費やすようになった。「心にふれる器」をモットーにアマチュアとして陶芸を続けている。

陶芸はハードルが高いと感じるかもしれませんが、やってみると楽しくて、没頭できます！興味がある方、一步踏み出してみませんか？

陶芸を始めたきっかけは？

岩見沢市に住んでいた時に、岩見沢市内の陶芸施設で開催されていた体験教室に参加したことがきっかけで、陶芸を始めました。

何度か通っていましたが、その陶芸施設が閉鎖になってしまいました。まだ陶芸を続けたかったので、陶芸ができる場所を探したところ、職場がある江別市内に、セラミックアートセンターがあることを知りました。そこからレンタル工房を約4年間利用しています。これからも続けていきたいと思い、より職場とセラミックアートセンターに通う時間が短くなるよう、今年の10月に岩見沢市から江別市に引っ越してきました。

どんな作品を作っている？

私は「心にふれる器」をモットーに、お皿やコップなどをメインに制作しています。使い勝手の良さを追求するのではなく、作品を見てもらった時に、手に持ってもらって「これ、いいな」と思ってもらえるような、デザインにこだわった作品を作っています。



作品の形を整えている板東さん

普段使われなくても、置いてあるだけで心が華やかになるようなやきものを目指して、仕事以外の時間のほとんどをやきもの制作に費やしています。

作品は、市内で年に1回開催される「えべつやきもの市」や「サッポロモノヴィレッジ」などのイベントや、個人のインスタグラムアカウントで販売したり、知り合いの美容室の一角に物販コーナーを設けてもらったりしています。

セラミックアートセンターのおすすめポイントは？

レンタル工房が素晴らしいと思います。電動ロクロは8台もあるので、他の人が使っていて、自分が使用できない

セラミックアートセンター 今後のイベント開催情報

陶芸・絵付け体験

①陶芸体験②絵付け体験のどちらかを選んで体験します。

【日時】11/10(日) 10:00～12:00

【対象】小学生以上（小学3年生以下は保護者同伴）【定員】①②合わせて20名

【持ち物】エプロン（汚れてもいい服装）

【料金】①800円 ②900円

【申込方法】体験日の前日までに電話（☎ 385-1004）または直接申し込み

冬の親子陶芸体験 ～丸皿を作ろう！～

オリジナルの丸皿を親子で作ります。

【日時】11/30(土)・12/1(日) 10:00～12:00

【対象】小学生とその保護者

【定員】各日先着20名

【持ち物】エプロン（汚れてもいい服装）

【料金】800円

【申込方法】11/16(土)から体験日の前日までに電話（☎ 385-1004）または直接申し込み

親子で板作りのお皿を作ろう！

粘土を板状に伸ばし、縁を立ち上げてお皿を作ります。

【日時】12/8(日) 10:00～12:00

【対象】未就学児～小学生とその保護者

【定員】16名 【持ち物】エプロン

【料金】800円

【申込方法】11/24(日)から体験日の前日までに電話（☎ 385-1004）または直接申し込み

特集の感想をお待ちしています

▼ 郵送・ファクスで送る

〒067-8674 高砂町6 江別市広報広聴課宛

☎ 381-1070

▼ 市HPアンケートフォーム

市HP内「広報えべつ」で検索するか右の二次元コードを読み込んでください



やきものの魅力は？

「自分を表現できる」ところが魅力だと思っています。初めて岩見沢市で体験講座を受講した時は、「下手だ」ときっぱり言われてしまいました。続けるかどうか悩んで

ことはほとんどありません。最初は工房だけ貸してもらえ

いた時に読んだ、芸術家の岡本太郎さんの本に「うまく作る必要なんかない。うまくできた作品なんて面白くもへつなくれない。どんどん下手にあつて、「下手でいいんだ」と思えました。それから、自分が好きだと思える作品を作つて、その作品が、手に取つてくれた人の心に響いて欲しいと思うようになりました。私は、長く続けることで、自分の中に目指すべきものが生まれると思っています。これから陶芸を続けていきたいです。



他の利用者と情報交換

何度も粘土を触つて、自分の作りたい作品を表現していけば、楽しさを実感できると思います。

下の二次元コードから、板東さんの作品を観ることができます↓



板東さんの作品

やきもの、陶芸で 彩り豊かな日常に

セラミックアートセンターでは、これまで多くの方がやきものの魅力に触れてきました。また、陶芸の魅力に惹かれ、陶芸を長く続けている方も多くいます。

やきものや陶芸との出会いは、あなたの日常に彩りを添えてくれるかもしれません。セラミックアートセンターで、あなたの心を揺さぶる作品に出会ったり、一つの作品が完成するまでのワクワク感やドキドキを肌で感じたりしてみませんか？